



小平の自然に囲まれて

女流棋士として活躍する上田初美さん。小学校は小金井市の学校に通っていました。

「最初はバスを乗り継いで通学していましたが、時間がかかるので、3年生ごろから片道40分くらい歩いて通うようになりました。通学途中には、小平グリーンロードを横切ったり、玉川上水沿いを歩くところもありました。特に4月は桜並木があり、秋には銀杏がいっぱい落ちていたり景色から四季を感じやすい通学路だったことが思い出です」

小平市の一番の魅力が、緑が多いところと上田さんは話します。

「新型コロナウイルスの流行で外出が自粛になったときに、特に子どもたちは遊ぶ場所に困ったと思います。小平にはあじさい公園のような、遊具はないけれども、花を楽しんだり、走り回ったり虫を探したりできるような、自然のままの公園があちこちにあります。現在は市外に住んでいますが、今回、子を持つ親として、改めてそのような公園のありがたみがとてもよく分かりました」



グリーンロードの桜(上)、玉川上水の紅葉(下)



う え だ は つ み 上田初美さん

仲町出身。女流棋士。12歳でプロ入り。2011年5月には初タイトル「女王」を獲得。2018年5月21日に女流四段に昇段。現在は2児の子育てをしながら、第一線で活躍中。2021年4月にはデビュー20周年を迎える。

小平市観光まちづくり大使が語る

私たちのまち こだいらの魅力



小平市観光まちづくり大使は、スポーツや文化などの分野で活躍する小平市出身の方が、市内イベントへの参加や、自身の活動のなかで、市内外に小平市を宣伝しています。

観光まちづくり大使として活動する皆さんはどのような分野で活躍していて、出身地小平のどこに魅力を感じているのか。5人の大使たちが、一人の市民として見る小平のまちの魅力を紹介します。

大使の思いに触れてみて、みなさんも小平の魅力を変えて考えてみませんか。

小平市観光まちづくり大使から皆さんへ メッセージ動画

観光まちづくり大使の5人が小平の魅力と、市民の皆さんへのメッセージを語った動画を、10月19日(月)まで、こだいら観光まちづくり協会の公式YouTubeチャンネルで公開しています。

動画は、右図QRコードを読み取ってアクセスまたは、ホームページからご覧いただけます。

🔍検索 フラットナビ 小平にこないか



こだいら観光まちづくり協会
公式YouTubeチャンネル



小平の子どもたちが楽しめる活動を

上田さんは、観光まちづくり大使としてこれまでに4回、市内で子どもを対象にした上田初美杯(将棋大会)を開催しています。将棋を通して、意外なつながりが生まれたこともありました。

「上田初美杯を始める前にも市内で将棋大会を開いたことがあって、その時に、将棋がお好きな同じく小平市観光まちづくり大使の小林顕作さんが来てくださって、一緒に将棋を指したことがありました」

現在、上田さんは、新型コロナウイルスの流行で小平市観光まちづくり大使としてこれまでのような活動ができない中、どのような活動ができるか考えています。

「子どもをもつ親としては、外に遊びに行きたい気持ちが強いので、公園など屋外での活動を何かやってみたいですね。小平の子どもたちが自然の中でおらかに育ってくれたら嬉しいなと思います」

地域で育った生粋の小平出身

女子バレーボール日本代表としてオリンピックの舞台でも活躍した大林素子さん。幼稚園のころから、バレーボール選手時代にイタリアに移籍するまでずっと小平で暮らしました。

「小学校は、小川東小学校に通っていました。住んでいる団地のすぐそばにあって、ほとんど団地の子たちが通い、クラスは1組ずつでみんなお互いに顔を知っている、という環境でした。そういう意味では、その地域で育った感じがありましたね。ただ、卒業後しばらくして廃校になってしまったので寂しかったです」

大林さんが過ごした小川東小学校は、小平元気村おがわ東と名前を変え、現在も利用されています。

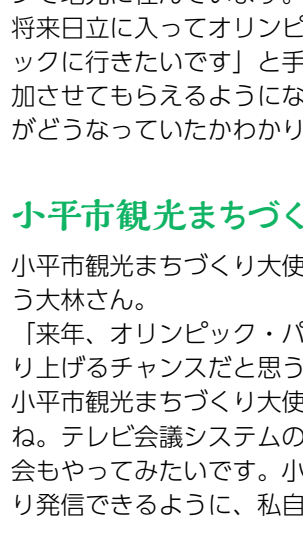


小平元気村おがわ東



お お ば や し も と こ 大林素子さん

小川東町出身。元バレーボール選手。オリンピック日本代表として、ソウル、バルセロナ、アトランタ大会に出場。引退後はスポーツキャスターをはじめ、舞台など幅広く活躍中。現在、バレーボール・Vリーグの理事も務める。



小平市観光まちづくり大使としてもっと外に発信したい

小平市観光まちづくり大使として、もっとたくさん活動していきたいという大林さん。

「来年、オリンピック・パラリンピックが予定されていて、スポーツを盛り上げるチャンスだと思うので、その手伝いをしていきたいです。また、小平市観光まちづくり大使同士でタッグを組んで、何かを企画したいですね。テレビ会議システムのズームなどを使った、オンラインでの意見交換会もやってみたいですね。小平を市外の人により知ってもらえるように、より発信できるように、私自身ももっと頑張りたいと思います」

楽しく外で遊んだ子ども時代

外で遊ぶのが大好きだったという吉本一謙さん。子どものころは、友だちとよく小学校の校庭や市役所隣のグラウンドなどでサッカーや鬼ごっこ、野球などをして遊んでいました。

「5歳のころから習い始めたサッカーが好きで、時期もちょうどJリーグが始まったころだったので、テレビで見た三浦知良選手のカズダンスの真似をしたりしていました」

そんな吉本さんが小平で一番好きな場所として挙げたのは、小平グリーンロード。

「小平グリーンロードの風景が好きです。距離も長いので、風景を楽しみながら散歩するのも好きです」

自分だけの強みを大切に

現役のプロサッカー選手として活躍する吉本さんが、サッカーを続ける中で大切にしてきたことがあります。

「自分はこれだけは負けない、というものを誰にも負けないように練習してきました。自分は、ヘディングとゴール前の守備は誰にも負けないと思って練習してきました。サッカーに限らず何事も、自分がどれか一つでも「これは負けない」というものを持ち続けていたら、長く続けることができるのでは、と思っています」



市役所隣のグラウンド(上)、狭山・境緑道(下)、プレーする吉本さん(右)

小平をみんなが自慢できるまちに

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言期間中、「もし、小平に自分と話すことで喜んでくれる人がいたら嬉しいな」という思いから、市内のサッカー少年・少女やその保護者向けに、テレビ会議システム(ズーム)で交流会を企画・開催しました。

また、小平を離れて、改めて生まれ育った小平が好きになることに気付いたという吉本さん。

「自分が発信することで小平を市外の人にも知ってもらいたいです。でも、小平に住んでいる人たちが自分のまちを好きになることが一番だと思うので、自分が活躍することで、「小平出身の人、頑張っているね」と言ってもらって、まちのことも誇りに思ってもらえるように自分も頑張っていきたいです」



よ し も と か ず の り 吉本一謙さん

学園東町出身。プロサッカー選手。185センチの身長を生かしたヘディングを武器に、攻守に制空権を握る守備の要のセンターバック。現在は、Jリーグ・清水エスパルスに所属している。

地元の自然や商店街が魅力

津田町出身の鳳真由さん。子どものころは、毎日のように中央公園で遊んでいました。

「その場で同年代の友だちを作ったり、よく砂場で山やだんご、要塞などを作って遊んでいました。楽しくて、毎日帰りたくないと言っていたそうです」

そんな鳳さんが小平の一番好きな場所として挙げたのは、玉川上水。

「忙しかったり、煮詰まったり、大変なときに、音楽も聞かずにただ無心で玉川上水沿いを歩くと、100%すっきりするんです。小平を離れていたころは、たまに小平へ帰るたびに歩いていました。新緑の季節は、景色が目によくて香りもすがすがしいので一番好きです」

さらに、鷹の台駅前の商店街も魅力的と話します。

「古くからのお店や新しいお店が並んでいて、それぞれにこだわりを持っているところが好きです。最近も、気になるお店がいろいろありますね」

大好きな宝塚での日々は宝物

宝塚が大好きな祖母の影響で、小さいころから宝塚が大好きだったという鳳さん。その大好きな宝塚で男役として主演を務めるなど活躍しました。

「宝塚時代の思い出はたくさんありますが、一番印象深かったのは、宝塚を退団したあときな一人になったような感覚になって、とても寂しかったことですね。当時は大変だと感じていたことも、今考えると楽しかったな、と思います」

一つにとどまらず挑戦し続けたい

現在、大学生として医療系の学部で学んでいる鳳さん。実習やコロナ禍を通して、学んだことを具体的に生かしたいという思いが強くなったといいます。さらに、医療だけでなくとどまらず歌を続けたり、ほかにさまざまなことに挑戦したいと考えています。

「観光まちづくり大使としては、玉川上水の良さを広めていきたいです。また、ウォーキングが好きなので、市内全部を歩いて回りたい目標もあります。歩くことで見つかるものもあるので、それを探していきたいと思います」



中央公園(上)、新緑の玉川上水(下)



お お と り ま ゆ 鳳真由さん

津田町出身。元宝塚歌劇団花組の男役。2005年に初舞台。「太玉四神記」新人公演では二番手役に抜擢されるなど活躍し、2016年7月に宝塚を卒業。卒業後は大学へ進学し、現在大学3年生。



観光まちづくり大使の意外な接点

小川東町出身の小林顕作さん。同じく観光まちづくり大使の大林素子さんとは近所の団地に住んでいて、小林さんのお姉さんは小平第二中学校のバレー部で大林さんの後輩だったという接点があります。

「大林さんに姉が中学校のときにバレー部の後輩だったことを伝えたら、とても驚かれました。地元では、僕らの中の有名人といえば大林素子さんだったんです」

小平での思い出として、小林さんが強烈に覚えている出来事があります。

「小学2年生くらいのときにダイエー小平店ができて、いつも人がいっぱい、イベントもたくさんあってよく芸能人も来ていました。パレードの番組がきっかけで販売されたホタテラーメンのイベントに安岡力也さんが来られたことがあって。自分のまちにホタテマンが来たことがとても嬉しくて、ありったけの力で「ホタテマン」と叫んだら、ご本人に、うるさいと本気でどなられて、すごく泣いたことを今でもよく覚えています。怖かったですね」



子どものころ、よく行っていた狭山公園プール



こ ば や し けん さく 小林顕作さん

小川東町出身。俳優、声優、演出家、脚本家、ダンサーなど幅広く活躍。NHK Eテレ「みいつけた」のオフロスキー役としても知られる。



小平はありのままが魅力

小平の魅力は、あまり目立たないところではないかと話す小林さん。「知名度の高さなどの武器はないけれど、のどかで実は一番住みやすい場所なのでは、と感じます。あとは、子どものころから、小平市の形が戦艦みたいで素敵だった」と感じていましたね」

できないことから楽しいことを見つけ出す

コロナ禍でも、できることを探していきたいと小林さんは話します。「こんなご時世で、できなくなったことでもあります。でも、僕はそういう環境には可能性しか感じないです。できないことがあると、人間はそこでもできることを探す能力があると思うんです。例えば、将棋が好きなので大勢のちびっことちと将棋大会とか、完全フェイスシールドで本気の鬼ごっことか、使っていない建物などを借りて、壮大なかくれんぼなどを300人くらいでやってみたいです。そういう楽しいイベントを企画してみたいですね」